

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	06206
----------	-------

1. 開設大学	県立広島大学	開催方法 (キャンパス・施設)	<input checked="" type="checkbox"/> 対面 (広島キャンパス) <input type="checkbox"/> オンライン (同時・録画)			
2. 科目名	土壌環境を考慮したスマート農業構築に向けた取り組みの最前線					
	学問分野	番号	32, 33	名称	理学, 農学	
3. 担当教員	米村 正一郎 生物資源科学部 生命環境学科環境科学コース 教授 三苦 好治 生物資源科学部 生命環境学科環境科学コース 教授					
4. 開講期間 (曜日) 開講時間	令和3年7月30日 (土) 9時00分 ~ 12時20分 (60分×3回)					
個別開講日	1回目 /	2回目 /	3回目 /	4回目 /	5回目 /	6回目 /
5. 募集定員	20 人					
6. 科目内容・ 授業計画	<p>【科目内容】 現在、農地には大量な施肥が行われ、様々な化学物質が土壌に蓄積しています。次世代には土壌環境を考慮したクリーンなIT農業を構築する必要があります。本公開講座では、「土壌と大気との関係」(1限目)、及び、「環境に優しいスマート農業の取り組み」(2限目)について講義し、土壌と大気との関係、クリーンなスマート農業の構築、およびそれらの研究を支える分析法や評価法などについてグループディスカッションを行います(3限目)。なお、本公開講座の内容は、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs) のSDGs2・SDGs9 (スマート農業)、SDGs13 (大気との関係) に関係するものです。</p> <p>【授業計画】 1時限 60分の授業を3回実施します。各時限の間には、10分間の休憩をもちます。各時限の授業内容は以下の通りです。</p> <p>(1限目 9:00~10:00, 担当 米村正一郎) &lt;SDGs13&gt;          農地からは温暖化の原因物質である温室効果ガスが出ています。水田からはメタンや、畑からは亜酸化窒素が出ていますが、効率的な農業生産を行うことで温室効果を防ぐ効果もあります。環境中の現象は複雑ですが土壌と温室効果ガスの関係を把握する分析法等について知り、気候変動問題について考えてみましょう。</p> <p>(2限目 10:10~11:10, 担当 三苦好治) &lt;SDGs2・SDGs9&gt;          ICT (Information and Communication Technology) 技術等を活用した農業が注目を集めています。このような農業を一般にスマート農業を言います。県立広島大学で取り組んでいるスマート農業の実例を紹介し、農薬や施肥量の削減につながる技術および正確に土壌環境を把握する分析法等も紹介します。</p> <p>(3限目 11:20~12:20, 担当 米村正一郎, 三苦好治)          印象に残ったキーワードや考え方について理解できた部分を発表しましょう。その内容を参加者全員で議論し、深掘りしてみましょう。どんな将来にしたいか、「環境科学」でできることは何かを考えてみましょう。</p>					
7. 受講料	無料					
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) なし。					
9. 開講条件※1 あり・ない	① 最少開講人数 ( 5 人) 定員超過の不許可は選考により決定 ② 不許可・不開講通知日 (7月8日(金)以前の開講科目は3月末まで/7月9日(土)以降の開講科目は6月末まで)					
10. その他特記事項	受講者についての制限事項、オンライン(同時・録画)の使用ソフト、受講時の注意など 特になし。					
11. 開設大学への 交通手段	<a href="http://www.enica.jp/">http://www.enica.jp/</a> 開設大学のホームページにジャンプして確認してください。					

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。コロナ禍の影響により、対面講座の不開講・休講またはオンライン(同時・録画)へ変更になる場合があります。